

【別紙様式2】令和4年度 県立大子特別支援学校 自己評価表

目指す学校像	スローガン「 ひらく ～ 開 啓 拓 」 ・ 育てたい子供の姿を地域社会や学校間で共有し、多様な社会資源との連携・協働を求めて、自ら外に「開く」学校。 ・ 持続可能な社会の創り手としての子供に加え保護者、地域社会、関係諸機関にも、社会に開かれた教育課程で「啓く」学校。 ・ 障害のある子供が自分のよさや可能性を、伴走者である教師とともに見つけ、伸ばし、豊かな人生を「拓く」学校。				
育てたい子ども 像	「 しなやかな子 ～ 自信をもち、柔軟で、粘り強い子 」				
昨年度の成果と課題		重 点 項 目	重 点 目 標	達 成 状 況	
「教育活動」 ・ 児童生徒全員にタブレット端末を配当し、普段の授業はもとより、休業期間中でもオンライン授業やオンデマンド授業を行うことができた。 ・ 染色クリエイター等の外部人材との協働をとおして、体験を重視した学習を行うことができた。 「心と体の安心安全」 ・ 防災学習に特化したワークショップ型の学習及び校内宿泊学習を実施することができた ・ 実際の災害や緊急事態への適切な対応を想定した避難訓練のもち方、避難経路等の検討が必要である。 ・ 新型コロナウイルス感染症の感染状況に応じて授業や給食の対応を柔軟に行うことができた。 「つながる学校」 ・ 十分な感染症対策とＩＣＴの活用を検討し、小学部は上小川小学校と、中学部は南中学校と学校間交流を行った。 ・ 地域のラジオ局や漫画家の協力を得ながら地域への理解啓発と情報発信をすることができた。 「教職員の資質向上・働き方改革」 ・ 大学教授を迎えての講演会や３ユニットに分かれての授業作りに関する研修を行い専門性向上を図ることができた。 ・ ＩＣＴスキルアップのための研修方法を改善する。		1 学びがい	① 指導の個別化と学習の個別化による個別最適な学びの実現	B	B
			② 教職員の専門性向上のための研修の充実	B	
			③ 情報発信と社会資源の活用による地域連携の強化	A	
		2 働きがい	① 自立と社会参加を促すキャリア教育の充実	B	A
			② 教職員の自助努力と労働環境の改善による働き方改革の実現	A	
			③ 多様な人材との連携・協働による働きがいの相互向上	A	
		3 頼りがい	① 学校の危機対応における体制づくりと環境整備の強化	A	A
			② 信頼される教職員であるための規範意識と行動の徹底	B	
			③ 地域における特別支援教育のセンター的機能の発揮	A	
		4 生きがい	① 生活の質の向上につながるスポーツ・文化芸術活動の充実	B	B
			② 共生社会の土壌づくりに貢献する交流及び共同学習の推進	B	
			③ 主体的な PTA 活動の推進による共育風土の醸成	B	

評価項目	具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価		成果(○)、課題(●)及び次年度(学期)への課題(◇)
日常生活の指導	○児童生徒の身辺処理能力の向上に努め、自立につながる指導を行う。	○個に応じた分かりやすい手順表やイラストを提示する。	1－① 2－①	A	B	○必要に応じて、イラストを使用したり、学年をまたいで支援する教員を変更したりと個別の対応ができていた。 ●年間単元計画作成にあたり、学部間での情報交換を行った。定期的にそういった場を設けられるとよい。
		○教職員間での指導方法の相違により、児童生徒が困惑することがないよう、部会等を通して随時確認し、共通理解を図る。 ○小学部の低学年から中学部まで一貫した系統性のある指導を行うため、小学部、中学部の実践についての情報交換を学習指導部会等で行う。	1－① 1－② 3－①	B		
遊びの指導	○児童の主体性や決まりを守る力を伸ばせるよう、地域や友達と関わる遊びの指導を継続的に実施する。	○にこにこ歩行では、学校内外を歩く活動を通して、交通ルールや決まりを体験的に学ぶ機会を設定する。 ○主体的に児童同士が関わるができるよう、様々な教材教具を準備したり、自由遊びの時間を設定したりする。	1－③ 2－①	A	B	○左右確認や並んで歩く、仲良く遊ぶ、順番を守るなど、活動の中で交通ルールや集団活動の約束などに触れる機会を多く設定することができた。 ●場所の確保が難しく、トランポリンの使用が少ない。活用機会の検討を行っていく。
	○安全に学習活動を行うための環境づくりを行う。	○授業開始前に活動場所の整備や道具の点検、事前に歩行コースの確認等を随時行う。 ○トランポリン使用日誌を利用し、トランポリンの有効活用、安全な活用を呼び掛ける。	1－① 3－①	B		
生活単元学習	○社会参加に備えるための身辺自立の力、社会自立の力、職業自立の力を各教科等の内容との関係付けを図りながら、具体的な体験を通して修得できるようにする。	○研究研修部と連携して、学習内容を各教科等の見方・考え方を生かしたり、働かせたりできる内容を構成できているか確認し、単元の評価規準、評価基準の作成及び評価についての検討を行う。 ○小学部と中学部の生活単元学習の内容について系統性を確認し、必要に応じて内容や年間指導計画の検討・見直しを図る。	1－①② 2－①	B	B	●学習内容や単元構成については研究研修部や中学部での新しい取り組みがあったため、係として進めることはなかった。 ○小学部内では学習内容について検討し、見直しできた。 ○中学部では各教科領域等の単元配列表を作成し、生活単元学習もそれに沿って一部実施した。

国語・ 算数、数学	○国語、算数・数学にかかわる教材教具の整理整頓、及び、管理表の開示を行い、活用方法について教職員間で共有する。	○教材教具等の整理整頓を年に2回行う。 ○国語、算数・数学関連の教材・教具についてデータサーバに保存し、教材を回覧することで、教材を周知し、教職員に活用を促すよう努める。	1－①② 2－②	B	B	○大がかりな整理整頓を行った。扉に写真を貼ることで、教材の保管場所が分かるようになった。 ●これまでの紙媒体での回覧はできた。しかし、過去のデータはないことが判明した。 ○児童生徒の発達段階に合わせたグループごとのPDCAにより、授業改善につなげることができた。
	○学習指導要領に基づき、児童生徒の発達段階に合わせた授業づくりを行う。	○「内容一覧表」を積極的に活用しながら、年間指導計画を立てたり、反省をもとに見直しを行ったりする。	1－①②③ 2－①	B		
音楽	○歌唱、身体表現、器楽、鑑賞などの音楽の学習に関して、指導の系統性を図るとともに、個々の児童生徒の実態に即した支援を行い、自主的・創造的な活動を引き出す。	○児童生徒の実態に即した音楽に関する知識・技能の定着を図ることができるように、積極的に教材研究や指導法などの研修を行う。 ○個々の児童生徒が、音楽活動に興味、関心をもてるように、ICTを活用したり様々な音楽体験ができる場を設定したりする。	1－①②③ 4－①	B	B	○それぞれの児童生徒の実態に合わせた教材を準備することができ、様々な音楽の体験活動をすることができた。 ●学部ブロックを超えた研修の実施が必要である。
		○吹奏楽やいろいろな楽器の音を聴くことで、実際の楽器から出る音の迫力や複数の楽器が奏でるハーモニーを味わう。世界の珍しい楽器を見たり、音を聞いたりする体験も行う。	1－①②③ 4－①	A		
体育保健 体育	○児童生徒の体力及び運動能力を十分に把握し、ICT等を活用しながら、指導内容の改善、体力や運動能力の向上に努める。	○体力テストや普段の体育で活動している様子から、体力や運動能力を十分に把握し一人一人に合った授業づくりに努める。 ○ICT等を活用し、自分の身体の動き方に気付きながら、運動能力の向上に努める。	1－①②③ 4－①	A	A	○体力テストや普段の授業の様子から、個の体力にあった授業づくりに努めることができた。 ○授業によっては、ICT等を効果的に活用し、身体の動かし方の気付きにつなげることができた。

図画工作 美術	○各部・学年との連絡調整を図り、児童生徒の実態に対応した年間指導計画の検討・修正を行う。	○各部、各ブロックの担当者間で、児童生徒の実態に応じた材料、道具の選定やその系統性について検討し、共通理解を図る。	1－①②③ 4－①	A	B	○それぞれの学部・学年の実態に応じ、系統性のある図工・美術の授業が展開できた。 ○昨年度よりも多くの作品展、コンクールに児童生徒の作品を出品することができた。 ●学校 HP の活用が難しく、学校外への児童生徒の作品紹介の場が少なかった。
	○各部と連携し、各種作品展への応募や展覧会の周知を計画的に行い、児童生徒の作品を学校内外に紹介する。	○児童生徒の出展・展示計画を作成したり、学校 HP の活用をしたりしながら、作品の紹介を計画的に行う。	1－①③ 4－①	B		
特別活動	○児童生徒が主体となつて行う集会活動や学級活動、共同学習の場面を設ける。	○生徒会が中心となり、集会活動を主体的に実施する機会を設けたり、話し合い活動を中心とした学級活動の時間において、継続的な交流及び共同学習を計画したりして、児童生徒が主体となつて活動する時間を設ける。	1－①③ 4－②	A	B	○2か月に1度全校集会を実施し、司会等の役割を自分たちで決め、主体的に集会活動を行うことができた。 ○各関連教科・領域等の担当教員と話し合いの機会を設定し、各教科等と特別活動の授業内容等について話し合いながら整理することができた。 ●特別活動≡学級活動という考えでいいのかどうか、再度学習指導要領等を確認する必要がある。 ◇特別活動の在り方や年間指導計画について再度検討する必要がある。
	○年間指導計画を見直し、他教科との連携を図り、特別活動のねらいや活動内容を整理する。	○生活単元学習や総合的な学習の時間等の担当教員との話し合いの機会を定期的に設定し、連携を図りながら、特別活動のねらいや学習内容を検討、整理する。	1－①②③ 2－③	B		
作業学習 (紙加工・手芸)	○作業製品づくりを通して、基礎的な作業態度を身につける。また、作業能力を高めることを目指す。	○挨拶・報告・安全・返事・確認・丁寧さなどの作業の心得を学ぶことにより、日々の生活の中に生かせるようにする。生徒の個々の能力に応じた作業内容、教材・教具づくりに努める。	1－①② 2－①	A		○作業を行う上での基礎的な態度が身に付き、意識化されてきた。 ●生徒の実態を十分に把握した上で、個に応じた教材・補助

	○作業を通して、働くことの喜びを感じ、将来に向けて、働くイメージを作る。	○分担・協力して、作業工程の役割を意識して取り組むことができ、生産から消費・貢献への流れが理解できるような活動の場の設定を工夫する。 ○地域周辺において、製品となる材料収集や作業体験できる活動の場を増やす。	1－①②③ 2－① 2－①③ 1－②③	B B	B	具作りを継続して行う。 ◇地域の特性・特色を生かすことのできる活動の場や体験の場を設ける。
職業・ 家庭	○実践的・体験的な活動を通して、将来に向けての自立への関心を高め、進んで家庭や社会生活に関わることを目指す。	○生活に即した体験活動の充実を図り、身の周りや家庭内での仕事への意識付けを図る。 ○生徒がよりよい生活の実現に向け、自分で工夫できることを考え、実践していく授業づくりに取り組む。	1－①②③ 2－①③	B	B	●学習した内容と生活場面とのつながりを実感できる学習活動を充実させるまでには至らなかった。 ○長期休業中の生活について事前事後学習を取り入れたことで、生徒が生活リズムや手伝い等を自ら考え実践する様子が見られた。 ○係や他教科と学習内容の検討を行いながら、単元を精選することができた。 ◇3年間の系統性を意識した学習計画を検討していく。
	○生徒の実態に合わせた指導の在り方や学習内容について検討する。	○生徒の生活年齢や実態に応じた授業展開や他教科との棲み分けを考えた学習内容の精選、年間指導計画の改善を図る。	1－①②③ 2－③	A		
自立活動	○自立活動レコーディングシート（RS）の見直しと活用法について検討し、周知を図る。	○前年度のアンケート結果をもとに、RSの見直しを行い、自立活動の授業づくりに生かすためのモデルを作成し、提案できるようにする。 ○実態把握や指導内容等について様々な視点から検討できるよう、担任と授業担当者の他、コーディネーター等を交えた話し合いの機会を設ける。	1－①② 2－① 3－③	B	B	○中心課題の異なる実践例について担当者から話を聞き、モデルとして提案するとともに、RSシート活用について周知する準備をしている。 ●係として話し合いの機会を設定することができなかった。 ◇月に1回程度、定期的に話し合う時間の確保に努める。 ○セラピストによる学校訪問指導は計画通りに実施することができた。指導助言の内容や結果等については、年度内に周知し、情報を共有できるよう研修を実施予定。
	○医療等の専門家と連携し、自立活動における教職員の指導・支援に関する知見を得ることができるようにする。	○セラピストによる学校訪問指導、児童生徒が通院する医療機関での見学、相談の機会を通じて、専門家の助言を生かした授業づくりにつなげられるようにする。 ○指導の経緯、結果等の記録の仕方を提案し、学校全体で情報を共有できるようにする。	1－①②③ 2－① 4－②	A		

総合的な 学習の時間	○自ら考え、主体的に取り組む力を育てるための支援のあり方を考え、活動の深化を図る。	○職場見学・職場体験等、生徒各自が主体的に取り組むことができるように、指導計画を工夫する。○職場見学・職場体験する場所の開拓を図る。	1－①② 2－① 4－②	A	B	○1年生の職場見学、2年生の職場体験とも、目標をもって取り組むことができた。単元時数の確保、生徒の実態に合った事業開拓が今後必要である。 ○大子ライオンズクラブとボッチャ競技を行い、障害スポーツを体験することができた。今後、活動内容が課題である。 ◇「大子をかじっちゃおう」で、事前に大子町の特産品等を調べ、校外学習では、職員のアドバイスにより、自分たちで考え、活動することができた。地域連携も必要かと考える。
	○地域との理解啓発として地域交流を行う。	○地域交流では、大子ライオンズクラブの方々と一緒に体験したり、触れ合ったりすることで本校のことを知ってもらい機会を設ける。 ○生徒が主体的に地域の方々とかかわることができるよう、活動内容を工夫する。	1－①②③ 2－①② 4－②	B		
特別の教科 道徳	○道徳の授業づくりや評価についての研修を行う。	○資料等で授業作りの研修や情報交換を行い、年間指導計画作成に生かす。 ○評価の記入方法について研修し、個別の指導計画等への記入方法について各部で伝達できるようにする。	1－②	A	A	○研修会での情報交換や資料共有を行い、年計の見直しを行うことができた。 ○頃藤保育所との交流、中学部の清掃活動に合わせて、小学部も校内を清掃した。体験が伴うことで、道徳的な心情を育てるために役立った。感想などを掲示して共有できた。 ●対話的な学習ができるよう工夫をする必要がある。 ○グランドデザインを基に道徳の全体計画を作成することができた。
	○児童生徒の実態に合わせて、グループワークなどで対話的・協働的な学習の場を設ける。	○体験したことや感じたことを共有することで、他の意見や考えを知ることができるようにする。	1－①	B		
	○道徳の全体計画作成をする。	○本校の全体計画を見直し、グランドデザインや児童生徒の実態から、全体計画を作成する。	1－②③ 2－③ 3－② 4－②	A		
小学部	○深い学びの実現を図る授業作りを行う。	○発達段階や実態に合った教材や学習環境を整えることで、深い学びにつながるような学習を推進する。	1－①	B	B	○発達段階や児童の実態に合わせて、興味関心のある題材や教材の工夫ができていた。 ○発達段階を意識し、個々ができることを行うことで働きがいを感じる活動ができた。
	○キャリア発達を意識した小学部段階で必要な力を養う。	○発達段階に即した基本的生活習慣の定着と系統的な体験活動の充実を図る。	2－①	B		

	○清潔・健康・感染症及び防災の学習の充実に努める。	○個々の実態に応じ、自分自身を守るための、清潔・健康・感染症についての学習及び防災についての学習を継続的に進める。	3－①	A		●日常生活の指導において、各学年で確認できる段階表があると良い。 ○マスクの着用・手指の消毒等、個に応じて徹底が図れた。継続的に防災を意識する学習が計画的に実施できた。 ○直接的な交流が年間2回実施でき、新聞・手紙の交換・FAXのやり取り等の間接的な交流も実施できた。
	○学校間交流では、1年を通し、つながりを感じることができる活動の充実に図る。	○通年でつながりを感じることができるように、対面の交流会だけではなく、間接的な交流活動を設定する。	4－②	A		
1年	○教室環境を整え、体験的な活動を中心に深い学びにつながる学習を行う。	○教室環境を整え、手順カードやICT機器を活用し、見通しをもって活動できるようにする。 ○体験的な活動を多く取り入れ、児童が考え行動する機会を設けることで、深い学びにつながるようにする。	1－①②③	B	A	○教室環境を整え、視覚的な刺激を減らした。日常生活や学習活動に集中して取り組めた。 ○日常的に係活動や手伝いを行った。役割を自覚して行えた。 ○保健で手洗いやマスク着用の指導を2回行った。 ○防災についての学習を行い、身を守る姿勢や行動が身についた。
	○係の仕事など自分の役割からキャリア教育の基礎的な力を育む。	○係活動や授業の準備の手伝いなど、日常的に役割を担えるように工夫する。	2－①	A		●マスク着用が不十分な児童がいるので、継続した支援が必要である。
	○清潔や防災などに関する基礎的な力をつける。	○手洗いやうがいなどの行い方をイラストや動画で伝達し、繰り返し指導する。 ○身を守る姿勢や行動について、教師と一緒にを行い、緊急時に対応できる力をつける。	3－①	B		○簡単な仕事を依頼し、職員室や保健室などの教員とかかわることができた。
	○校内や学校周辺の施設等で多くの人とかかわる機会を設ける。	○校内では、簡単な仕事を依頼することで、普段かかわりの少ない教員や児童生徒とかかわる機会を作る。 ○校外では、校外歩行や校外学習において、地域の方にあいさつをする等で触れ合う機会を設ける。	4－②	A		○校外歩行や学習で保育所や駅、店の人と進んでかかわることができた。
2年	○児童が安心して学習活動に取り組むことができるような環境づくりに努める。	○実態に応じた教材・教具を用いて、楽しみながら学習を進められるようにする。 ○児童の要望を受け入れ、日常生活に反映することで、自分の気持ちを伝えることの大切さを実感できるようにする。	1－①②	A	A	○興味のあるキャラクターや歌、道具を用いながら学習を進めたことで、「もっと～したい。」という発言を多く聞くことができた。

	○保護者との積極的な情報交換を行い、共通理解のもと指導を行う。	○安全に生活が送れるようにするために、児童の実態や課題を明確にする。 ○連絡帳、電話連絡、個別面談等を通して家庭の様子や保護者の要望を把握する。	1－①② 3－①②	B		○可能な限り児童の要望に応えたことで、自分の考えや気持ちを相手に伝えられるようになった。 ○緊急時の対応等について、小学部全体で共通理解を図ることができた。 ●緊急時マニュアルを早急に作成する必要があった。また、スクールバスの運転手、添乗員と児童の対応について確認することが必要である。 ○連絡帳や電話連絡を用いて、積極的に情報交換を行ったことで、安全に生活を送ることができた。
3年	○児童が主体的に学習したり、進んで行動したりできる環境を設定する。	○教職員及び保護者間で情報交換を行い、児童の課題や興味・関心を的確に捉える。 ○I C T機器や体験活動を取り入れるなど、児童の実態に応じて教材・教具を工夫する。 ○児童への言葉かけと見守り支援を意図的に使い分け、児童の気づきを促す。	1－①② 2－①	A	A	○気になる行動やその対応策など共通理解を図ることができた。 ○頑張りの過程を称賛し、記録を残すようにしたことで、自主的な行動につながった。 ○地震や火事など災害を想定した体験活動を通して身を守るための行動を理解することができた。4月に比べ、パニックにならずに対応できるようになった。 ○手の菌が視覚的に見えるよう手洗いチェッカーを用いたことで、手洗いのポイントを意識し実践できた。 ●鼻までマスクをつけるなど正しいマスクの付け方の定着が不十分だった。
	○災害や感染症への理解を深め、安全な学校生活を送ることができるようにする。	○避難方法を知ったり、自分の身を守るための行動について深く理解するために、災害時の状況を実際に体験したりする際に視覚的支援を取り入れる。	1－① 3－①	B		

4 年	○児童が安心して自分の意見や気持ちを伝えられる環境設定や手段の模索、環境づくりに努める。	○様々な場面で、児童が自分の意見や気持ちを表現できるよう、教職員が実際の場面を想定したやりとりの手本を示したり、児童の気持ちを代弁して相手に伝える補助をしたりする。 ○児童の要望を受け入れ、教職員が児童と共に行動したり、要望を叶える場面を設けたりすることで、自分の意見が伝わる成就感を実感できるようにする。	1－①②③	A	B	○教師が手本を示したり、仲介したりすることで、児童が自分の意見や気持ちを言葉で伝えようとする様子が見られるようになった。 ○個々の児童の課題等を改善・解決するために、学年、ブロックの教員や支援部と連携し、ケース会議等必要に応じた話し合いの場を設けることができた。 ●児童の要望を教師が受け入れ、教師が共に行動する場面を設けた。児童が自分の意見を伝えられたという成就感を実感できたかどうかの判断が教師の主観になってしまった。
	○部・ブロックの教職員間や、保護者との情報交換を密に行い、個に応じた指導の充実に努める。	○児童の自立に向けた現在の課題を明確にするため、部・ブロックの教職員間の話し合いを密にする。連絡帳、電話連絡、個別面談等を通して家庭の様子や保護者の要望を把握する。	1－① 3－①②	B		
5 年	○児童が自己肯定感を持ち、かかわる人たちを認め、尊重し合えるような指導、支援を行う。	○児童同士がかかわる場面を設定し、必要に応じて教員が補助をしながら、児童同士が認め合ったり、やりとりの成功体験を積み重ねたりすることができるようにする。 ○児童の行動観察や教職員間の情報交換に努め、実態に応じて適切な表現方法を繰り返し伝える。	1－①② 2－①	A	B	○個に応じた表現方法を提供することで、成功体験が増え、児童が自信をもって人とコミュニケーションをとることができるようになった。また、他者を認める経験を日常生活と授業で積極的に取り入れることで、児童同士認め合う様子が増えた。 ○児童の課題の改善策や様子について、情報交換を日常的に密に行うことができた。 ●実態把握を基に個に応じた教材・教具の作成に努めてきたが「児童自らの学び」という点においては、改善が必要である。
	○児童が「わかった」と思えるような学習環境づくりに努める。	○一人一人の実態に応じた教材・教具を作成、準備し、児童自らの学びへの取り組みにつなげる。 ○学んだことを活用する場を設定し、深い学びにつなげるようにする。	1－①②③ 2－① 4－②	B		

6 年	○適切な実態把握に努め、小学部最高学年としての自覚と行動ができるような指導、支援を行う。	○日常の行動観察から、児童の長所や課題を把握する。その結果を受けて役割を設定し、実際のやりとりを通して正しい挨拶や言葉遣い、身辺処理などの定着を図る。	1－① 2－①	A	B	○生活単元学習の内容等と関連させながら日常的に指導することで、下級生の手本であろうとしたり、自分から役割を担おうとしたりする様子が見られるようになった。 ○学期に1回以上防災についての学習をしたことで、自分の身の安全を守るにはどうしたら良いか等考えることができた。 ●言葉かけや手本を示すことで手洗いの手順については実践できたが、自主的に行うという点では課題が残る。
	○災害時の対応や感染症への理解を深め、安全な学校生活を送ることができるようにする。	○手洗い、うがい、マスクの着用、手指消毒を徹底して行うことで対策を習慣化し、自ら気付いて取り組むことができるようにする。 ○防災については、避難訓練や防災についての単元における体験的な学習を通して、意識を高める。	3－①	B		
中学部	○考えを表現する活動や、協同的な活動を取り入れた授業力の向上に努める。	○授業力向上のために、授業にすぐに活かせる研修を行う。	1－①②	B	B	○各家庭のニーズに応じ、コーディネーターと連携し、学校見学や自力通学に向けた保護者との話し合い、福祉課との保護者面談などを実施した。 ○心身の体調不良があった生徒からの悩みに管理職や養護教諭、保護者と連携し、迅速に対応した。1月に全生徒と養護教諭の面談を実施した。 ○スポーツ大会の参加、生美術、詩、のコンクールに応募した。
	○一人一人の進路や日常生活の課題に応じ、保護者に情報を提供し、共有する。	○保護者や本人と検討し、主体的に進路選択をしたり、高等部や地域資源の情報を提供したりする。	2－①③	B		
	○生徒が悩みや心配事を話せる環境づくりを推進する。	○心身の成長が著しい時期に感じる悩み事や心配事に関する情報を研修し、計画的に面談を実施する。	3－①②	A		
	○一人一人の長所や得意なことを活かしたスポーツ大会の参加やコンクール等に出展する。	○保護者や本人と検討し、主体的に参加したり、出展したりできるように情報を共有し、連携する。	4－①	B		
1 年	○「やってみよう」という気持ちをもち、挑戦し続けることができる学習場面を積極的に設ける。	○「やってみよう」と思える場面の設定や言葉かけを行う。教職員が自ら挑戦する姿を示したり、一緒に挑戦したりすることで安心感をもって活動に取り組むことができるようにする。 ○あいさつや返事や態度、人の顔を見て話を聞くことができるなど、基本的な学習態度ができるようにする。	1－① 2－① 3－②	B	B	○少しでもイメージがもてるように画像や絵、説明などを工夫して、「やってみようかな」という気持ちになって、挑戦しようという場面が増えてきた。 ○生徒の前に立つときは、始める前に目線や姿勢の意識を高めてから

	○安心して学校生活を送ることができる環境づくりに努める。	○子どもたちが安全に、安心して学校生活を送ることができるよう、保護者との積極的な情報共有を行う。 ○教室内に不要なものを置かないことで、安全の確保や突発的な怪我等の未然防止ができるよう、教室内及び周辺の確認や教職員間での情報共有を行う。	3－①	B	始めるようにした。今では、教師が生徒の前に立った時に姿勢を良くする様子が増えてきた。 ○連絡帳を中心に、電話であったり、直接話をしたりする等、必要に応じて情報共有を行った。 ○教室内をチェックする生徒や他の生徒に向けては、危険の可能性のあるものを置かないことや、直接見えないように片付けるなどして対応できた。
2年	○あいさつや返事などの定着を図り、自分で、自分からできることを増やすために挑戦する場面を積極的に設ける。	○自己選択の場面を積極的に設け、自分で、自分から行動することができるような言葉かけや発問を行い、「できた」と生徒が実感できる機会を増やす。 ○挑戦することに対する不安感を減らすために、失敗を認め、一緒に活動を振り返ることができる雰囲気や成功を一緒に喜ぶ環境づくりを行う。	1－① 2－① 1－①③ 3－②	A	○「一人で○○ができた。」と生徒が自信をもって報告する場面を多く見ることができた。生徒が自信をもって活動する場面も多く見られた。 ○「失敗しても大丈夫です。」と何度も言葉かけをしたことで、生徒も「失敗しても大丈夫。」と言いながら様々なことに挑戦することができた。 ○生徒のいつもと違う様子等に気づき、教員間での情報共有をし、保護者とも継続的な情報共有を行うことができた。保護者と相談し合いながら学習内容や支援方法を決め、家庭と学校で同様の支援を行うことができた。
	○安心して学校生活を送ることができるように、保護者と積極的な情報共有を行い、保護者と生徒の思いに沿った支援を行う。	○連絡帳や個別面談等を通して、積極的な情報共有を行い、保護者や生徒の思いに沿った学習場面の設定や支援の方法を考える。 ○生徒の体調不良やいつもと違う様子に気付いた時には、家庭と学校での様子について情報共有を行い、保護者と相談しながら適切な対応・支援を行う。	1－①② 3－② 3－①②	A	
3年	○生徒が自分にできることを考え、周りに対して何か貢献をすること（役に立つこと）を意識した生活ができるよう努める。	○自分ができることや、役立てることを意識できるような言葉かけや、係活動や生徒会活動を中心に、一人一人に役割を与えるなど、生徒が活躍できる場を増やす。 ○生徒が貢献したことを称賛する場を設け、「貢献」することを意識して生活できるようにする。	1－① 2－①③	A	○教師が仕事を依頼することが多かったが、次第に声をかけなくても、休んだ友達の仕事を代わりに行ったり、友達が取り組んでいる姿を見て、自分にもでき

	○保護者及び関係機関との連携強化のもと、生徒の将来的な自己実現に向けて計画的な進路指導を進め、生徒や保護者の進路に対する意識を高める。	○進学・進路に向けての課題を明確にし、保護者や必要な関係機関と情報交換をしながら指導・支援にあたる。 ○指導の経過や家庭での状況を個別面談や連絡帳等で確認し合うことで、情報共有を図り、共通理解のもとに支援を行う。 ○生徒一人一人の良さや課題の背景把握に努め、個に応じた指導場面や内容を工夫し、将来の自立と社会参加に向けた系統的・計画的な指導を推進する。	1－①③ 2－①③ 3－②③	A	ることを探したりする姿が多く見られた。 ○定期的に、部や学年、保護者と共通理解を図り、生徒一人一人の良さを伸ばすような支援策を講じることができた。面談や連絡帳の他に、必要があれば電話連絡や関係機関とも連携しながら、スピードを意識した対応をすることができた。
教務部	【企画文書】 ○積極的な社会資源の活用につなげるための各部、校務分掌との連携、調整に努める。	○多様な人材を学習活動に計画的に活用できるよう、地域連携の係を中心に各校務分掌との連携を図る。 ○教職員と学生ボランティアの相互向上に向けた取り組みがなされるよう、授業補助等の事前の調整や改善につながる事後の意見収集に努める。	1－③ 2－③	A	○学生ボランティアを含め、もりのこサポーターの登録、連絡調整を簡潔に進め、授業、森林の子祭での相互向上に向けた取り組みがなされた。 ◇外部人材の積極的な活用に向けた年間単元計画の検討。 ○各部でのデータ整理の手順の共通理解を図ることができた。 ◇各校務分掌のデータの整理手順の共通理解を図る。
	○教職員間で共有すべき情報の管理、整理の推進に努める。	○サーバー内の児童生徒や校務分掌に関する情報を整理する形式を検討し、提示する。 ○データや個別ファイルの整理状況を定期的に確認し、情報内容を見直し、整理作業の継続を促す。	2－② 3－① 4－②	B	
	【新採研】 ○教職員・一社会人としての基礎的・基本的な資質能力、課題対応力等を育成できるよう努める。	○必要な知識、技能を習得できるよう、各授業・校務分掌担当と協力して授業参観や講義・演習を行う。 ○対話の機会を随時設けることで、研修対象者が自身の考えや課題を整理したり、心身のコンディションを良好に保ちながら職務に臨んだりすることができるようにする。	1－② 2－② 3－② 4－① 4－②	B	
					●参観や演習というよりも、実際に授業や分掌の担当者の一として臨みながら学んでもらうことがほとんどになってしまった。 ○授業研究に際して、計画、準備から振り返り等の場面で話し合う機会をもち、各々の考えや思いを受け止めた上で励ましや称賛の言葉かけをすることができた。

	【現職教育】 ○校内研修を通して特別支援教育に関する専門性の向上や人権に対する意識向上を図ることができるようにする。	○特別支援教育に関する教職員の専門性や人権に関する内容の研修会を実施し、教職員としての資質能力及び専門的知識を向上させ、日々の実践に活かせるようにする。	1－② 3－②	A	○人権教育に関する研修会を実施し、主にヤングケアラーについて学んだ。また性的マイノリティ理解増進に関する動画等をICT係と連携してclassroomにアップし、見やすくした。
	【教科書・図書】 ○児童生徒の実態に合った教科用図書の採択を行うとともに、児童生徒の読書活動や図書室の利用を充実させる環境づくりを行う。	○教科書選定委員会等の適切な採択の手順を踏み、係内で分担しながら、次年度の教科書採択を行う。 ○児童生徒の読書活動を推進するために、児童生徒の好きな本や読みたい本の聞き取りを行ったり、季節や行事などの本の紹介コーナーを設置したりする。 ○国語や自立活動と連携し、児童生徒同士での読み聞かせ活動の場面を設定する。	1－① 2－② 1－① 4－① 1－① 4－①	B	○管理職を含め、複数人で複数回確認をしながら適切な採択の手順を踏み、採択を行うことができた。 ○図書スペース内のラックに季節や行事に関する本を並べ、おすすめの本を紹介することができた。 ○小学部において、高学年の児童が低学年の児童に読み聞かせをするなど児童同士での読み聞かせの場面を設定することができた。
研究研修	○学校全体または小グループで、授業実践を行いながら生活単元学習の目標設定や評価について研修し、よりよい生活単元学習について研究する。	○学校全体で、各教科等を合わせた指導の定義や位置づけについて研修する。 ○生活単元学習の現状と課題を把握し、単元ごとに合わせた教科を踏まえた目標設定と評価の仕方について授業実践を通して研究する。	1－①②	B	○各教科等を合わせた指導について、全体研修で共通理解を図ることができた。 ○研修支援事業を活用し、研究協議及び研修会を実施した。 ●生活単元学習の授業づくりについて、部・ブロック等の集

	○授業研究、研究協議や外部講師の講演会を通して、専門性の向上を図る。	○各部・ブロック等の集団で授業研究を行い、授業を実践していく中で、各教科等を合わせた指導についてよりよい授業の在り方を検討する。 ○各教科の専門性向上のため、専門家等の講師派遣を依頼し、研修会等を行う。	1－② 2－③	B	B	団で話し合い、疑問点を出したり、協議を行ったりすることができたが、部・ブロックでの授業実践は実施できなかった。
ICT 教育	【ICT 教育】 ○子どもの実態や環境の変化に対応した学習を実現するための ICT 活用の促進。	○活用例や有効アプリの情報収集を行い、専用サイトで紹介するとともに、係員が積極的に授業等で活用してみせる。	1－①②	B	B	○PC 室を配信専用室として整備するとともに、視聴覚係として担当を設定したことで、安定した配信を行うことができるようになった。 ●タブレット端末以外の ICT 機器（ドローン、VR ゴーグル等）の積極的な活用。 ◇配信機材の応用的な操作方法について研修を進めることで、視覚的な情報支援を高めた配信を実現する。
	○指導用 iPad の校務活用のためのシステム作り。	○Google Workspace の諸機能を用いた、簡単な内容からの情報共有を進めていく。	2－②	A		
	【視聴覚】 ○配信専用室の設置とオンラインによる授業や、儀式的行事及び式典での配信の実施。	○配信用機材を全教職員で柔軟に運用するための空間整備と活用法の研修を深める。	1－①②	B		
学習指導	○各教科の系統性の検討や内容の見直しを行い、よりよい授業づくりに生かす。	○学習の個別最適化を実現するための授業づくりのポイントを整理し提示する。 ○学習の系統性を図るために、各係で、ブロックや各部の年間指導計画、学習内容や指導法について情報共有する機会を設定する。 ○学習指導要領や指導書を参考にし、授業づくりや効果的な指導方法について情報収集を行い、発信をする。	1－①②③ 2－①③ 4－①②	A	A	○各係で年間指導計画の単元の見直しや単元の精選を行うことができた。 ○授業づくりのポイントを共有することができた。 ○指導書に関する情報を発信し授業づくりに生かすことができた。 ◇教科等横断的な視点を踏まえたより実効的な年間指導計画の作成。
スポーツ・文化芸術推進	【スポーツ推進】 ○部活動を通して、生涯にわたってスポーツ等の活動への参加を楽しむことができるような取り組みに努める。	○実態に応じた支援方法を考え、一人一人の可能性を引き出せるように努める。 ○達成感や喜びを味わえるように、大会に向けての練習を計画し、可能性を伸ばす支援に努める。	1－③ 2－① 4－①	A	A	○実態に応じた支援を進めてきた結果、大会への参加率が増えてきた。短期間の結果に捉われず、長期間の取り組みの結果、入賞する生徒が増えてきた。

	【文化芸術推進】 ○文化芸術的学習の発表の機会を設け、児童生徒の学習のまとめと学習への意欲を高める。	○高文連関係行事やナイスハートふれあいフェスティバルの作品募集にあたっては、関係職員との連携を図りながら進める。	1－①③ 4－①	A		○係内で役割を分担し、図工・美術の担当職員と連携しながら関係行事の運営、作品展示を進めることができた。
保健安全	【保健・給食】 ○感染症対策や食物アレルギー対応における体制を整え、児童生徒の安全を守り、安心して学べる教育環境をつくる。	○衛生管理研修や緊急時シミュレーションを積極的に行うことで、事故を未然に防止するとともに、教職員の危機対応力の向上を図る。 ○感染症対策ガイドラインの見直しや、食物アレルギー対応の取り組み、実施までの流れを明確にする。	1－② 3－①	A		○調理従事者に対して、衛生管理や異物混入防止等に関する研修を学期に1回程度実施し、学校給食における事故防止の意識を高めることができた。 ○感染症対策ガイドラインについて、感染状況に合わせて見直しを行っている。 ●食物アレルギー対応の取り組みについて、次年度からの運用に向けてマニュアル・様式を作成している。
	【防災・安全】 ○一部避難経路を変更し避難訓練（地震、火災）を実施する。 ○災害に応じた避難方法、対応ができるよう、災害種を変更し、訓練を実施していく。	○安全な避難経路を再検討し、児童生徒、教職員に周知を図る。併せて、災害の種類や状況によって、安全な避難を考えて行動できるよう、教職員の意識を高められるようにしていく。 ○地震・火災対応の避難訓練をベースに、雷対応、直近で実施していない原子力又は J アラート対応の避難訓練を実施し、各災害に対応していく。	3－① 3－② 2－①	A A	A	○一部避難経路を変更した避難経路に従って、事前に経路の確認をし、地震対応の避難訓練を実施した。また、火災対応の避難訓練も同様に、事前に経路を確認し、避難訓練を実施した。 ○今まで実施できていなかった雷対応の避難訓練を行った。熱中症警戒の状況のため、実際の避難行動は一部の生徒のみであったが、放送は予定通りに行い、雷発生時の避難方法について学習できた。また、近年頻発している弾道ミサイル対応の為、1月下旬に、Jアラート対応避難訓練を実施する。

生徒指導	【生徒指導】 ○児童生徒の健全な育成と学校生活における安全の確保に努める。	○交通安全教室、不審者訓練などの行事を計画、実施することで、自分の命を守るための意識の向上を図る。 ○さわやかマナーアップキャンペーンを通して、挨拶等のマナーの向上を意識できるようにする。	1－③ 2－① 3－①	A	B	○交通安全教室、不審者対応訓練などを計画し実施することができた。 ○さわやかマナーアップキャンペーンも毎月実施できた。11月はJAでのあいさつ運動もできた。 ○児童生徒の様子について、担任、係、バスの乗務員間で日頃から情報共有ができていた。また、必要に応じて保護者への連絡も行い、個別の対応を検討するなど、安全な運行を第一に考え、業務に取り組むことができた。 ○バスの乗務員と連携して、マニュアルの見直しができた。 ●係の教員が不在の時の対応について、他の教員でも対応できるよう、業務内容を共有する必要がある。
	【スクールバス】 ○安全を第一に考え、スクールバスを利用することができるよう、児童生徒への指導や必要に応じて個別の対応を検討する。 ○バス会社との連携を密に図り、安全かつスムーズな運行に努める。	○乗車中における児童生徒の様子については、担任、係、バスの乗務員、保護者間の情報交換を随時行い、必要に応じて個別の対応についても迅速に検討し、トラブルの未然防止に努める。 ○安全な運行を第一に、学校とバス会社間で緊急時の対応についての確認や運行状況、路線情報等についての情報共有を密に行う。	1－① 2－① 3－①②	B		
進路指導	【進路指導・キャリア教育】 ○保護者への進路情報の提供。 ○キャリア・パスポートを活用し、日々の学習活動の成果を可視化できるような仕組みの検討。	○個別面談等で保護者の進路に関する悩み等を把握し、進路だよりの発行を通じて、保護者へ進路情報を発信する。 ○友達と学び合った学習過程や活動を通して自己判断・自己決定した場面の振り返りを記録し、ポートフォリオとしてキャリア・パスポートに反映できるようにする。	1－①③ 2－①	B	A	○小中学部の保護者へ進路だよりを通じて進路やキャリア教育に関する情報を発信することができた。 ●面談やアンケートを通じて保護者が必要な進路情報を収集する。 ◇キャリア・パスポートの活用では、各学期の目標、振り返りを加えて試行したが日々の学習の振り返りには至っていないため、今後、保護者への通知も含め検討していく必要がある。
	【地域連携】 ○安全な放課後デイサービス利用について関係機関と連携を図る。 ○地域と連携し、地域交流の計画を行う。	○放課後デイサービス業者と連携し、より安全な乗車方法や児童生徒の引き渡しの方法を検討していく。 ○地域と密な連携をし、児童生徒と地域のつながりを意識した交流の計画を行う。	1－③ 2－① 2－③ 3－①	A		○安全な放課後デイサービス利用について、関係機関と連携を図りながら進めることができた。 ○もりのこサポーターとの連携が始まり、地域の方々との交流会を開く手がかりを作ることができた。

教育支援	【教育支援】 ○高等学校への定期的な支援。	○高等学校の特別支援コーディネーターと連携し、計画的に巡回相談を行えるようにする。	3－③	B	B	○高等学校の支援では、年度初めに対象生徒の支援方針、内容を決める流れが確立してきた。 ◇中学校と高等学校のCoを集め、生徒の実態や有効な支援についての情報交換の場の設定。 ○学校、地域、居住地校との交流では、積極的かつ継続的に実施する雰囲気ができてきた。 ◇主体的に活動できる内容、方法を考え、今後も継続的に交流できるよう努めたい。 ○特別支援学校の教育に好感をもてる体験入学ができた。 ◇参加者の実態に合わせた体験入学、教育相談の実施の継続。
	【交流及び共同学習】 ○切れ目ない交流及び共同学習の実施	○内容、方法を工夫し、小・中学校や地域の方々との交流を継続して実施できるようにする。	4－②	A		
	【体験入学】 ○本校や特別支援学校の教育に関する情報の発信。	○内容等を変えて体験学習を4回実施。併せて教育相談を行い、本校教育への理解を図る。	3－③	B		
渉外部	【PTA】 ○保護者が主体となってPTA行事の計画、運営等の活動ができるように支援する。 ○茨知P連の事務局校として、PTA役員を中心とする保護者の協力の下、円滑に企画・運営ができるように努める。	○PTA 運営委員会や常設委員会において、各委員会の活動状況等を把握して連絡・調整をし、必要な支援を行う。 ○担当教職員間での情報交換を積極的に行う。 ○主に PTA 本部役員と連絡を取り、当日の流れ等を確認し、必要な支援を行う。 ○他校の担当教職員と連携を図りながら、理事・評議委員会や会員研修会などの計画・実施をする。	2－③ 3－② 4－③ 2－③ 3－②	B	B	○保護者が主体となり、PTA行事を企画、開催することができた。 ●各委員会において、保護者同士の連絡不足が見られた。 ◇HPの活用について、年度初めに確認する必要がある。 ○茨知P連の事務局として、県内知的障害教育校18校とのやりとりを行った。会の開催前に関係者と事前確認、連絡をこまめにしていたことで、当日の運営をスムーズに行うことができた。 ●全知P連、関知P連関係の情報(資料)が、係まで来ない時があったので、校内で確認、連携をする必要があった。 ◇茨知P連関係(PTA関係)の出張旅費について、確認が必要。(県費は対応せず。)